

科目名	音楽と社会	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	アルバレス・ホセ・サンティアゴ	単位	2	年次	2

＝授業科目の目標＝

音楽と社会との関わりについて、学ぶ科目です。「音楽」に軸足を置くのか、「社会」に軸足を置くのかで、その方向性も変わってきます。

本講では、「人の生の営みの中で音楽を捉える」という立場から、人の集まりである社会に軸足を置いて、その変化と音楽との関わりを、通時的視点を中心に、共時的視点も加味して、観ていきます。社会の変化につれて、音楽はどう変化したのか。また、何が変わらなかったのかを、具体的作品にもあたり検証していきます。

＝履修の条件と学習の方法＝

真摯な態度で、音楽を学び享受できる学生諸君の受講を求めます。

大学生が取るべき受講態度を、必ず実践すること。

高校卒業程度の世界史(特に文化史)の時代区分の知識を前提とします。

ノートは、自分なりの方法で、しっかりとまとめておくこと。

＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：講義の目標や内容の確認及びアンケート実施
- 2回 音楽と人々(社会)との関わり (1) <変遷>
- 3回 音楽と人々(社会)との関わり (2) <分類>
- 4回 人と人との繋がりの変化 (1)
- 5回 人と人との繋がりの変化 (2)
- 6回 人と人との繋がりの変化 (3)
- 7回 人と人との繋がりの変化 (4)
- 8回 人と人との繋がりの変化 (5)
- 9回 人と人との繋がりの変化 (6)
- 10回 人と人との繋がりの変化 (7)
- 11回 参加を求める音楽／偶然性の音楽
- 12回 舟歌と子守歌 (感性の背景にあるもの)
- 13回 クリスマスとパストラレーレとシチリアーノ
- 14回 予備
- 15回 まとめ
- 16回 テスト

＝成績評価の方法と評価の基準＝

評価は、周到な予習・復習に基づく能動的な授業への参加がなされているか否か、また、その結果としての習熟度がどうであったかで行ないます。

つまり、テスト・レポートの成績及び平常点、出席状況を勘案して評価します。

テストは、二部構成で実施し、第一部は、講義の最終回に実施し、第二部は、試験期間の所定の日を実施します。この2日間の試験を必ず受験してください。

第一部では、自筆のノート持ち込み可で、ペーパーテストを実施します。

第二部では、ペーパーテストの返却講評と、確認テスト(原則として持ち込み無し)を、行ないます。

具体的実施方法については、講義中に説明します。

=テキスト（必携）=

特になし（必要に応じてプリントを配布します。）